

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 10月 15日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	横山実玖歩

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高市・京都大学笹ヶ峰ヒュッテ、長野県下高井郡・地獄谷野猿公苑
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
令和元年 10月 2日 ~ 令和元年 10月 5日 (4日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学高等研究院 松沢哲郎特別教授/京都大学野生動物研究センター 杉山茂特任准教授/ 京都大学野生動物センター 福島誠子特定助教
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
実習のカリキュラム 10月2日 笹ヶ峰ヒュッテへの移動、ヒュッテ周辺の自由散策、地図読みの練習 10月3日 火打山(標高2462m)登山 10月4日 ヒュッテ周辺の散策 10月5日 山スキーについてのレクチャー、地獄谷野猿公苑でのニホンザルの観察、移動
1日目 電車、バスを乗り継いで5時間ほどかけてヒュッテに到着した。少し肌寒だったが、空気が澄んでおり晴れやかな空が目飛び込んできた。ヒュッテの周辺を歩くと、紅葉した山々を見ることができ一足早く秋の訪れを感じた。夕食を作って食べた後は、明日の登山に関するレクチャーを受けた。日の出と日の入りの時間、天気、気温、ルートなどを事前に確認して、どのような行程で登るかを計画した。これらの確認が安全な登山をおこなうために不可欠であると学んだ。この日は夜21時過ぎには就寝した。
2日目 日の出前の朝5時にヒュッテを出発した。初めは身体が目覚めておらず、息が上がって苦しかったが1時間も歩くと慣れてきて、周りの景色を見ながら歩くことができた。登っていく過程で、ダケカンバを中心にした落葉広葉樹林、オオシラビソを中心とした針葉樹林、ハイマツを中心とした高山植物帯と植生が変化していったのが興味深かった。周りの山を見ると、ふもとから山頂にかけて表面の色が変化しており、これらの植生の変化が見て取れた。道中で鳥の鳴き声が聞こえてきたが、パーティーのメンバーで鳥に詳しい人がいたため、種名を教えてくれた。また途中でいくつかの糞を発見した。山頂近くではそのうちの1つには植物の種子や毛が含まれており、雑食の動物であることが予測できたが、残念ながら種までは特定できなかった。自然観察をしながら登り続けて6時間、11時8分に登頂することができた。曇っていた空が頂上付近では晴れて、周辺の山々を見渡すことができた。山の表面が、緑、黄緑、赤、黄色、茶色などでパッチ状に彩られており、本当に美しかった。その後約6時間かけて同じ道を通って下山した。下山途中でニホンザルを観察することができた。木のトレイルから約5m離れた木の枝の上で1頭のオトナオスが採食していた。そのオスの周辺には7-9頭ほどのオトナやコドモがいて、木の上で採食や遊びをおこなっていた。トレイルを外れて少し追跡をしたが、しばらくすると去ってしまった。サルとの遭遇はあまりに静かで、突然であり、意識していなければ見逃してしまっていただろう。野生動物を発見や追跡の難しさを実感するとともに、見つけた瞬間の心躍る瞬間も味わうことができ、次の日の追跡に向けて期待が高まった。約12時間の登山を通して、「パートナーシップの大切さ」を実感した。パーティーの中には今まであまり話したことの無い人もいたが、登山の苦しさや景色の美しさを共有し励まし合って登るうちに打ち解けることができた。全員が登頂し、無事に帰ってくるという目標を達成させるには事前準備や知識はもちろんのこと、支え合う仲間の存在が重要であると学ぶことができた。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 3 日目

午前中はヒュッテの北側を散策し、昨日遭遇したニホンザルを追跡した。トレイルを歩き始めてすぐに、新しい糞やヤマブドウの食痕を大量に発見した。ヤマブドウは実が半分以上残った房が大量に捨てられており、食物が豊富な状況下にあることが予測できた。また糞には大量のヤマブドウの種子や皮が含まれており、ヤマブドウを大量に食べていることが確認できた。足音を立てないように、できるだけ早く、そして注意深く歩くことはとても難しく、フィールド研究者の苦労を少しではあるが体感することができた。歩き続けておおよそ3時間、ついにサルを発見することができた。離れオスがヤマブドウの果実やヤチダモの種子を食べている様子を観察することができた。雨の中にも関わらず時間が経つのを忘れて観察することができた。サルが採食し、排泄するサイクルを、実際の姿、食痕、糞の3つから観察することができても有意義な時間となった。

午後はヒュッテの南側を歩き、サルの大きな群れを観察した。台風の影響で風が強かったにもかかわらず木に登り、ヤマブドウを採食する姿を見ることができた。またヒュッテに帰ってから、散策中採取したサルの糞に含まれているヤマブドウ種子を数えた。1つの糞におよそ300-400の種子が含まれており、150-200粒のヤマブドウを食べていることが分かった。糞分析は初めての経験であり、フィールドでの観察から予想される行動を裏付けする有効な手段であると学んだ。

### 4 日目

杉山先生から山スキーの講習を受けた。冬になると笹ヶ峰には雪が積もり、全く異なる景色を見ることができそうだ。ぜひ積雪期の実習に参加して山スキーを体験したいと思った。

午後からは地獄谷野猿公苑でニホンザルを観察した。100頭以上のサルが一つの群れをなしており、2、3頭ずつが固まってグルーミングをしているというとても穏やかな光景が広がっていた。温泉に入る姿が見られるのは冬季のみだが、コドモが温泉の中で遊んでいる姿を見ることができた。1時間ほどの観察時間は写真を撮っているとあっという間に過ぎてしまった。今度訪れる機会があれば、事前学習や解説を通して群れの様子を把握して観察できたらと思う。



図 1 天狗の庭の絶景



図 2 大量のヤマブドウの食痕



図 3 ヤマブドウの種子が入った  
ニホンザルの糞



図 4 ヤチダモの種子を採食する  
ニホンザル



図 5 ニホンザルの糞に入ってい  
た 395 粒のヤマブドウの種子



図 6 温泉に入っていたニホンザ  
ルのコドモ

## 6. その他 (特記事項など)

本実習においてお世話になりました、杉山茂先生、松沢哲郎先生、福島誠子さんそして同行者のみなさまに深く御礼申し上げます。また本実習はPWSの支援を受けて実施されました。感謝申し上げます。

**「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書**  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)